

令和2年度 鶴岡市総合戦略策定推進会議（会議概要）

- 日 時 令和3年3月29日(月) 午後10時30分～11時40分
- 会 場 市役所6階大会議室
- 出席委員 佐藤夏希委員、齋藤和貴委員、齋藤祥子委員、眞田奈巳委員、
菊地喜好委員、村山秀樹委員、高橋幸司委員、増田千春委員、
上林沙織委員、渋谷広之委員、橋本政之委員、加藤静香委員
- 欠席委員 保科裕之委員
- 傍聴者 2名
- 次第 1 開会
2 委嘱状交付
3 市長あいさつ
4 委員の紹介
5 協議
 - (1) 会長選出
 - (2) 鶴岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂について
 - (3) 鶴岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る令和3年度の取組
について
 - (4) その他
- 6 閉会

(1) 会長選出について

委員の互選により、山形大学農学部長の村山秀樹氏が選出された。

(2) 鶴岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂について 及び

(3) 鶴岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る令和3年度の取組について

以下、委員発言の要旨

■テレワークの推進

- ・令和3年度の具体的事業「新型コロナウイルス感染症対策UIターンテレワーク支援事業」について、「経費の一部を支援」とは具体的にどのような内容か知りたい。
→支援メニューは2つあって、1つ目の「お試しテレワーク支援事業」では、県外の居住者が旅館や公共施設等を利用し、試行的にテレワークを行った際に、その施設使用に係る費用の一部を助成するもの。2つ目の「テレワーク環境整備事業」では、本市に移住された方がテレワークを行う際に、通信環境整備に係る費用やオフィスの使用料などの一部を助成するもの。支援対象は個人。
- ・企業や団体ではリモートを使った会議や研修会、交渉等を行っている。
- ・テレワークの取組とワーケーションの取組との連携により、相乗効果を図りながら、人口減少の抑制に繋げていくべき。

■関係人口の創出

- ・関係人口創出について、鶴岡市は30代の人口移入が多いと聞いている。その方々がなぜ鶴岡市を選んで移住してきたのか十分調査する必要がある。
- ・テレワークやワーケーションについては、全国の市町村が競争相手であり、何か特徴をつくるのが大事である。例えば、鶴岡市先端研究産業支援センターに全国に先駆けて5Gを設置することで、5Gを専門とするベンチャー企業の入居に繋がると思う。
- ・魅力ある観光資源は出羽三山、加茂水族館、温泉以外にも多数あるので、これをもっとPRしていくべき。
- ・加茂水族館の来館者数が多くなる一方で、加茂地域に還元されていないではないか。両者を繋ぐ事業を考えるべき。

■SDGs 及びデジタル化の推進

- ・商店街や市民が取り組むSDGs事業を支援することで、SDGsの取組の拡大を図ることができる。
- ・地方都市でデジタル化をしっかりと進めることで、市民の満足度も高くなるのではないか。
- ・学校において地産地消を学び、地元食材を食べようとする意識が醸成されており、これを継続することで地元に残る子供たちも増えると思う。
- ・地方都市である鶴岡市の魅力発信については、SNSやInstagram等のツールをうまく利用することが大切である。

■その他

- ・コロナ禍、県内就職者が増加している。この機会をとらえ、地元就職者と高校生の間を繋ぎ、地元企業への理解を深めることができれば、地元に残る学生も増えるのではないか。
- ・女性が活躍するためには女性が稼げる職場が必要であるが、現時点でそのような企業は少ないと感じている。女性の活躍できる企業の確保、雇用創出が大切である。
- ・鶴岡市の強みである「観光」と「食」の分野を伸ばし、将来的には雇用創出まで繋げることができればよいと思う。